

平成28年度第2回日高管内学力向上推進会議

今後の学校の在り方：学校・家庭・地域が目指す子ども像の共有化

平成28年12月5日（月）、日高合同庁舎201会議室において「平成28年度第2回日高管内学力向上推進会議」を開催しました。

会議の中では、日高教育局義務教育指導班、高等学校指導班、社会教育指導班からの報告・説明の後、小学校、中学校、高等学校での取組についての実践発表、日高地区校長会における研修事業について情報提供がありました。

また、学力向上に向けた取組の連携等について協議を行い、最後に、日高教育局 赤間局長から次年度に向けたまとめを行いました。



【会議全体の様子】



【報告説明・協議の様子】

【報告説明・実践発表】 学力向上に向けた効果的な実践

【義務教育指導班から】

- ・学力に関して**改善傾向**が見られているが、今後、授業改善の手立てとして、全ての子どもが、授業の見通しをもったり、授業の最後に振り返ったりする活動の充実を図る必要がある。

【高等学校教育指導班から】

- ・ICTを効果的に活用して授業改善を図る取組や、平取町における「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」など、各種指定事業を積極的に活用する取組により、**管内全ての高等学校における教職員の意識改革と授業の質の向上**を図っている。

【社会教育指導班から】

- ・家庭学習を含めた生活習慣の確立が、学力向上に果たす役割は大きく、**学校だけではなく家庭と連携を図った取組の充実**を図る必要がある。

【各学校種の取組から】

- ・浦河小学校：授業改善推進チーム活用事業により、**授業の質的改善や若手教員を中心とした教師の資質向上**が図られた。
- ・様似中学校：授業で身に付ける基礎・基本を明確にした「基本能力パック」を授業の冒頭で示すことにより、生徒が**課題解決に向けた見通しをもつことができるようになった**。
- ・静内高等学校：校内研修の充実や家庭と連携した取組により、**教職員が課題意識をもって授業改善に向けた取組を実践**することができた。

【協議】 学力向上に向けた取組の連携と継続した実践

- 新ひだか町として、今年度、各学校に「学力向上推進教師」を位置付け、各学校の学力に関する課題解決に向け、組織的な取組を推進したことにより、学力向上に向けた取組に対する教職員の意識が高まった。
- 幼稚園・保育所と小学校の連携において、保護者とのきめ細かな情報交流が大切である。
- 校長として、授業における「めあて（目標・ねらい）」や「振り返り」だけではなく、学習指導要領改訂に向けた、アクティブ・ラーニングやカリキュラム・マネジメントの視点をもつことが必要である。
- 高校として、地域にある中学校との実践的交流の充実を図るとともに、保護者と連携した学力向上の取組等を継続的に推進する必要がある。
- 家庭生活におけるルールを親子で作り、学習習慣の確立を含めた家庭生活の充実を図る必要がある。

【まとめ（今後に向けて）】（日高教育局長 赤間 幸人）

- 各学校においては、検証改善サイクルに基づく、**全教職員による組織的な取組を一層推進**する必要がある。
- 全国学力・学習状況調査を1つのツールとして議論を重ね、**学校、家庭、地域が目指す子ども像を共有し、学校の目標をつくり上げていく必要がある**。